

みんなの文芸



俳句 うらほろ俳句会

咲き残る小菊あつめて仏花にす
鳥の目一瞬ざろり霜の庭
つゆ草や秋空よりも青深く
ドクダミの花咲きており待つ我が家
秋の声天河涛涛星鏤めて
朝陽うけ霜ごとく地にささる
いちいの実湧いて来る来る群雀

井下まさの
大山みどり
黒田ちえ子
柴田 岱華
菅谷 日月
福原 仁子
山村 幹雄

川柳 浦幌川柳会

電子辞書頼りに少し若返り
髪染めて明日の笑顔に貰う倅
添えた手が軋み等ない温かさ
曾孫の片言嬉し頬ゆるむ
サ、寝よか自分に声をかける癖

山村 幹雄
阿部 麗紅
加藤 未貴
橋本 葉子
大山 研

川柳 上浦幌句の会

秋日和夕日に願う明日の日を
冬近し野菜取り入れ疲れはて
秋深し落ち葉さらさら風に舞う
何時の間に夫と別れて五十年
隣でも幾年無沙汰遺影に詫び
あなたが青私白咲く黒大豆
秋風が耳にしみる後片付け
だんだんと北風寒く身にしみる

笹島カヨ子
河村みよ子
芳川 乙美
加藤 明敏

短歌 心友愛会

渡り鳥北へ帰るか見送れば
戻り来る鳥お帰りなさい
今日も又皆の笑顔に会いたくて
手作りおやつ片手に急ぐ
雪虫の飛びかう季節我まだ
パーク楽しみ友に声かけ

山岸 明美
小川 房子
中田 麗子

台風で孫等の来る日伸びていた
実現が叶って楽しい我が家
友がいて仲間いりした会をぬけ
今は慣れない人まじわり

浅野 京子
前川 静江

寂しい一人暮らしに別れ告げて
友も入てるホームに住むよ
これからは何を夢みて生きるのか
淋しさばかり七十路のわが身
山すそをつつみし霧の中を抜け
一人立ちして子狐いきる

小澤 つや
佐藤 成子
星 愛子

編集後記

■「村政の主権者である住民皆さんに村政のあらゆる実態を知って頂くために、更に実態を知ることによって積極的な指導と協力を期待して『浦幌村報』を発刊することに致しました」。

■今号で800号となる広報の創刊号に、当時の吉川利昌村長が書いた言葉です。広報誌の歴史をひも解くと、町民と歴代の首長、職員が広報を育ててきた情熱に触れ、身の引き締まる思いです。

■皆様の想いのつまった広報を、時代に即した形でさらに発展させていく決意を新たにしました。改めまして皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

(大)

■掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)、お気軽にご連絡ください。